

議事録

会議名： 総合工学委員会・臨床医学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 核医学分野の大型計画検討小委員会（第 25 期・第 1 回）

日時： 令和 3 年 7 月 26 日（月）13：00～15：00

ZOOM による遠隔会議（主催会場：千代田区テクノロ大洗研究所（柴田委員））

参加者： 敬称略・順不同： 柴田 徳思委員長、神田 玲子、大倉 典子、青木 茂樹、井上 優介、遠藤 啓吾、岡沢 秀彦、櫻井 博儀、中野 隆史、足達 芳嗣、内堀 幸夫、絹谷 清剛、張 明栄、畑澤 順、東 達也、藤井 博史、佐治 英郎、学術会議事務局（影山）

議題等：

- 1) 自己紹介
- 2) 役員選出（委員長、副委員長、幹事（2 名））
- 3) 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- 4) 委員会委員間のメールアドレスの共有について
- 5) 第 25 期の活動について

議事録：

- 1) 自己紹介：小委員会の各委員、柴田委員長、佐治分科会委員より自己紹介があった。
- 2) 柴田委員長、中野副委員長、絹谷幹事、東幹事が選出された。東が当日の議事録作成役として任命された。
- 3) 柴田委員長より、本分科会、小委員会についての概略の説明がなされた。議事要旨についての説明がなされ、議事要旨案を委員へ回覧し、修正意見等の扱いは委員長に一任されることとなった。
- 4) 柴田委員長より、メール審議についての説明があり、メールアドレスの共有について委員の承認を得た。
- 5) 柴田委員長より、第 25 期の活動についての概略の説明があり、事前配付資料（ファイル名「配布資料全体（核医学大型計画）v2」）に基づき、資料 7（11 ページ）の「提言の概要（未定稿）」についての説明がなされた。この中で Tc 用の 50MeV 重陽子 2mA×2 台、Ac 用に 25MeV 陽子×2 台が必要とあるがメーカーで可能かとのコメントあり。足達委員より、京大原子炉や南東北病院の BNCT 用サイクロトン（陽子 30MeV, 1mA）の実績についてコメントされ、50MeV 重陽子の加速器であれば現状で 1mA まで製作可能と

考えられるが、将来 2mA まで実現可能となるよう技術開発する。加速器メーカーの立場として十分な放射能の RI を製造できるように、技術を開発し加速器製造に向けて、努力すると発言された。

東幹事より、資料 7 の補足資料としての資料 8 の説明がなされ、資料 8 に基づき「核種 Tc-99m の 100%輸入依存の問題点と最近の傾向」、「セラノスティクスと α 核種を用いた核医学治療についての課題：核種製造のみならず、薬剤製造開発の視点も必要」等についての説明があり、以上を踏まえて、加速器複合施設と GMP 準拠の薬剤製造施設、非臨床施設、臨床施設に加えて、これらのノウハウを有する専門人材が必要となるだろう等につき説明があった。

6) フリーディスカッションの時間が設けられた。議論の項目は以下となる。

- RI 供給体制の現状と展望
- 医療としての RI 安定供給の問題点
- 核医学分野の研究体制のあり方
- 研究開発から医療、社会実装までをシームレスに繋ぐ観点から、核医学の大型拠点を QST 千葉地区に設置する方向性
- 市民の理解、啓蒙活動、患者会との連携について
- 今後の方針について

その他

- 原子炉利用について
- 認知症について
- RI 医薬品実用化にむけてのその他の課題
- 参考資料について